

Study Abroad Benefits

留学で培う3つの力

留学で培う3つの力

Vol. 4

Brandeis University 大竹 舞

留学を通して何かを身に付けたり、考え方に影響を受けた人は多い。このコーナーでは「IELTS 北米奨学金」「IELTS Study UK 奨学金」の受賞者たちに、留学で培った3つの力について語ってもらう。今回は、Brandeis University の大竹 舞さんに話を伺った。

私は2012年8月から、アメリカのマサチューセッツ州にあるブランダイス大学大学院で、持続可能な国際開発学を研究しており、2014年5月に卒業予定です。将来は国際協力の分野、特にアフリカの食糧問題に関わる仕事をしたいと考え、そのために専

門的な知識や語学力を身に付けること、そして修士号が必要だったため、アメリカの大学院への留学を決意しました。留学中は特に、プロジェクトや組織のマネジメント、食糧問題について学ぶ予定です。

◎グループワーク力

私は議論への参加が苦手なので、グループワークがとても不安でした。「Planning and Implementation (プロジェクト計画)」の授業では、4人のグループで20ページ以上のプロジェクト計画書を完成しなければなりません。そのため、毎週2～3時間かけてグループミーティングを行い、一つひとつの項目を完成させていきます。私のグループは2人がネイティブで、もう1人も英語がスラスラ話せます。気がひけてしまったうえに、初めての計画書作成がよくわからず、議論にさっぱりついていけなくて、意見を聞かれても何も発言できない日々が続きました。

しかし、「このままではいけない」と焦った私は、プリントアウトやお菓子の差し入れなど、どんなささいなことでも自分ができることを見つけ、ほかに貢献できることはないかと探し続けました。私は新しいアイデアを出したり議論に参加するのは苦手ですが、情報を整理したり、細かい確認作業をしたり、グラフや図を作ったりするのは得意です。そこで、複雑な課題の情報をまとめて「今週これをやらなければならない」と自発的にメールしたり、図やグラフ、プレゼンテーション用のパワーポイント資料を作ったり、予算の細かい確認なども進んで行うようにしました。すると、ほかのメンバーも自発的に「私はこれをやるね」と言ってくれるようになり、改めて分担を決めなくても課題が自然と完成



自分の強みを生かしながらグループで学ぶ

することが多くなりました。最後にメンバーが「このチームは本当に素晴らしいチームだった。それぞれが自分の強みを生かして貢献できたし、誰一人ネガティブな態度を取らなかった。春学期の授業でもまた同じメンバーでグループになりたい」と心からの言葉をかけてくれました。私たちは授業の外でも同じメンバーでプロジェクトコンテストに参加することを決め、授業後も連絡を取り続けています。この経験から、「思いや姿勢は周りの人に自然と伝わっている。たとえ弱みがあっても、自分ができることを探して前向きに取り組むことが大切なのだ」と、身をもって学ぶことができました。



グループで学び合い、発表をする機会が多い

◎国際理解力

私の学部では、1学年に30カ国以上の国から学生が集まっています。私は留学前、青年海外協力隊として西アフリカのベナンに2年間住んだことがあります。国に良し悪しなんてないと頭ではわかっている、世界を先進国と途上国に分類し、経済や文明で国のレベルを計ってしまうところがありました。ある日、経済の授業で、2008年の食糧価格高騰について勉強していました。世界で米不足が深刻なときに日本はアメリカから大量に米を輸入し、アメリカ米をほとんど食べない、という話が出ました。クラスで唯一日本人の私に「日本は余った米を僕の国に送るべきだ」と言ってくるクラスメイトもいて、恥ずかしくなり居心地の悪い思いをしました。

後日、そのことをセネガル出身の友人に話すと、「恥ずかしがることなんてない。WTO(世界貿易機関)の規定で日本はアメリカの米を大量に輸入せざるをえないのだし、その米を輸出することは禁じられている。日本はむしろ世界に大きく貢献している。自分の母国のセネガルにも日本はたくさん協力してくれた。本当に感謝している。だから日



留学は多様な価値観に触れる機会になる

本人であるということに誇りを持ってほしい」と真剣に話ってくれました。私はこの言葉に救われ、もっと世界のことを知らなくては、と強く思いました。彼は私よりずっと英語が話せ、経験も豊富で成績も良く、悩み事があるとよく相談に乗ってくれています。心から尊敬できるセネガル出身の友人に会い、今自分が助けられていることで、青年海外協力隊のときには見えなかったアフリカの一面を見ることができました。いろいろな国の人が一時期全く同じ立場になって一緒に学び合う。そんな特殊な環境の中で、世界についてよく知り、国に対する偏見を一切なくして協力していくことの大切さを、今まさに学んでいると感じています。

◎表現力

留学をしてから英語で書く機会が格段に増えました。私は、最初の課題でかなり低い70点(不可)を取るほど英作文が苦手でした。しかし、成績の大部分は英作文の課題で決まります。そこで「英作文」の授業を取り、週1回の個別チューターレッスンを受けながら、英作文を基礎から学びました。私はそれまで、多くの単語を使い、難しい表現を使わなければならないと思っていましたが、膨大な課題を読む教授にとっては簡潔な文章の方が良いことがわかりました。そして一番大切なのは、質問の意図をしっかりと理解して、質問の答えに正確に答えるということ。アウトラインさえしっかりしていれば、たとえ中学校で習う文法と高校で習う英単語でも、最低8割は得点できます。あとは文章の流れが論理的でスムーズであること、it、theyなど代名詞の単語が何を示すのか明確に述べること、接続詞を正しく使い、例や文献などを引用して主張を適切にサポートすれば、高い点数が取れることもわかりました。自分で読み返したときに「この流れはおかしい」「この表現はしっかりこない」と感覚的にわかり、自分で書き直していくことも大切です。そのためには、やはり何度

も練習をして自分の感覚を磨いていくしかないのだと思いました。そんな繰り返しの練習の成果で、後半には90点を超えることも多くなってきました。

英作文で学んだことは、プレゼンテーションでも役に立っています。授業中、そしてロータリークラブやイベントなどでプレゼンテーションをするときは、集中して聞いてもらうために、聞き手が聞きたいことを考えわかりやすくまとめて伝えることを心がけています。初めは緊張しましたが、終わった後に「良かったよ」と言われるようになり、少しずつ自信が持てるようになりました。書く表現も話す表現も、「何を求められているのか主旨を理解し、簡潔な表現でわかりやすく伝えること」が大切。そのことを私はこの留学を通じて学びました。



ロータリークラブでプレゼンをしたことも